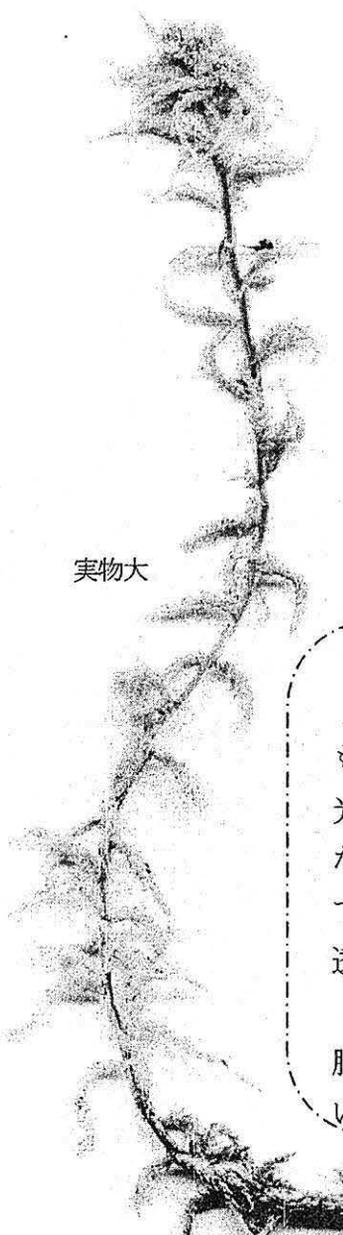


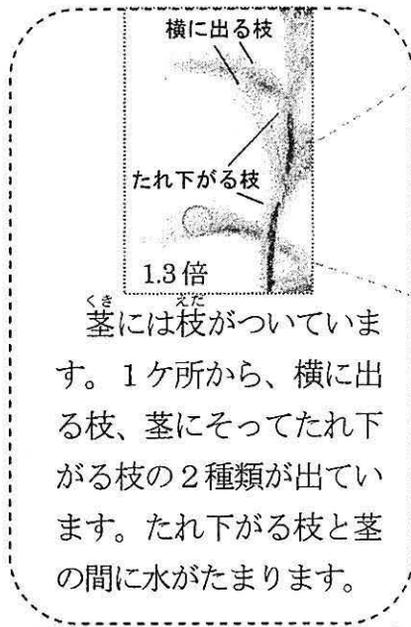
# 水をためるミズゴケのしくみ

ミズゴケはスポンジのように水をよく吸うので、植物をはちうえる時によく利用されるコケ植物です。

かわいたミズゴケに水をかけると、水を吸って 10 倍以上も重くなります。ミズゴケは、どのようにして水をためるのでしょうか。低地から山地に生えるオオミズゴケで、その体のしくみをさぐってみます。

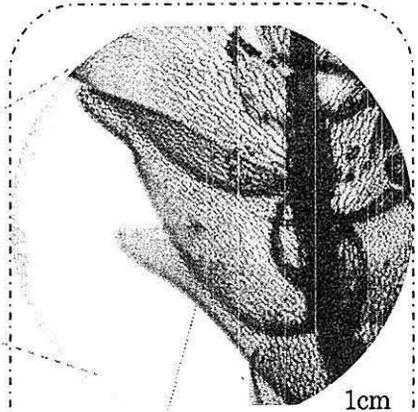


実物大

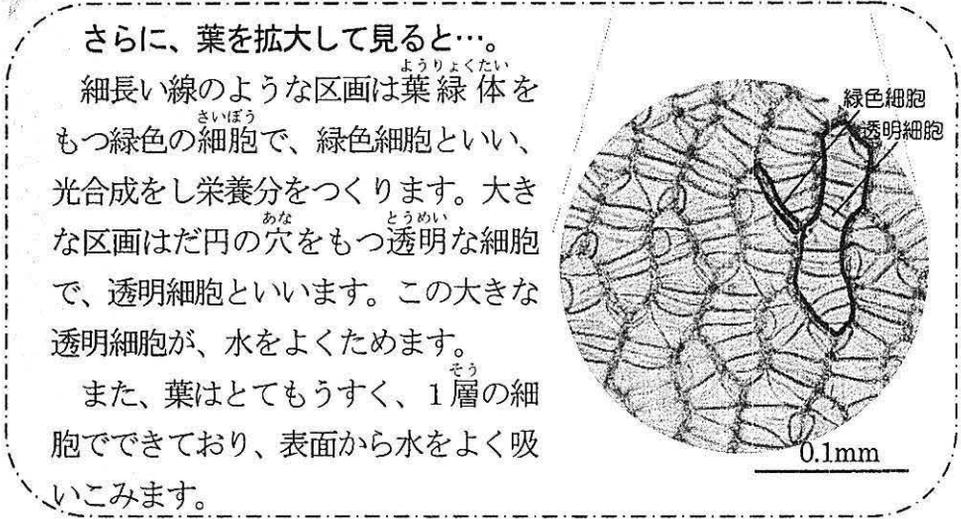


横に出る枝  
たれ下がる枝  
1.3倍

茎には枝がついてい  
ます。1ヶ所から、横に出  
る枝、茎にそってたれ下  
がる枝の2種類が出てい  
ます。たれ下がる枝と茎  
の間に水がたまります。



枝を拡大して見ると…。  
葉がウロコのようにびっ  
しりとしています。葉の  
間に水がよくたまります。



さらに、葉を拡大して見ると…。  
細長い線のような区画は葉緑体をもつ緑色の細胞で、緑色細胞といい、光合成をし栄養分をつくります。大きな区画はだ円の穴をもつ透明な細胞で、透明細胞といいます。この大きな透明細胞が、水をよくためます。  
また、葉はとてもうすく、1層の細胞でできており、表面から水をよく吸いこみます。

緑色細胞  
透明細胞  
0.1mm

ミズゴケは、野外ではたくさん集まって生えミズゴケ湿原をつくります。ミズゴケ同士の間にも水がよくたまるので、ミズゴケ湿原には大量の水が保たれています。(坂井奈緒子)

